

## 社会でも役立つ「効果の上がる学習方法」を考える

—「学習効果」＝「学習時間」×「学習方法」—

開倫塾

塾長 林明夫

Q 社会に出てからも役立つ、「効果の上がる学習方法」とは何ですか。

A (1)「学習効果」は、次の「掛け算」で決まります。

「学習効果」＝「学習時間」×「学習方法」

(2)①「掛け算」ですから、一方が少ないと、よい結果は出ません。

②「学習方法」がよくても、「学習時間」が少ないと、よい結果は出ません。

③「学習時間」が多くても、「学習方法」がよくなないと、よい結果は出ません。

(3)①このように、「効果の上がる学習方法」で大切なことは、2つです。

②「学習時間を確保すること」と「学習方法(勉強の仕方)を工夫すること」。

③この2つを、同時並行して行うことに尽きます。

Q 「学習時間を確保する」には、どうしたらよいでしょうか。

A (1)①お手本は「二宮金次郎」です。

②「二宮金次郎」は、山から薪を運ぶ道すがら、「大学」という本を読んで、自分のものとして身に着けたと、伝えられています。

③いつ、どこで、どのように勉強したらよいかを、「二宮金次郎」を「お手本にして考え実行すること」をおすすめします。

(2)①よく考えれば、「学習時間」は、いくらでも工夫して、作り出すことができます。

②朝早く起きて、机に向かう。学校から帰って、夕食まで机に向かう。夕食を済ませ、眠るまで机に向かう。

③土曜や日曜日、休日は、朝から夜寝るまで、時間があったら机に向かう。

(3)「勉強する時間を減らすこと」は、なるべくしないようにする。

①スマホを手にする時間を減らす。

②「勉強がよくできない、成績が上がらない」と、くよくよ悩む時間を減らす(いくら悩んでも成績は上がらないので、悩む時間は30分までにする)。

③喧嘩をして、イライラしている時間を減らす(喧嘩をしても、すぐ仲直りする)。

○忘れ物など、「ものを探す時間」を減らす(整頓…ものは、同じところに置く)。

Q 「学習方法を工夫する」ポイントは何ですか。

A (1)「予習の仕方を工夫する」

①「教科書を読み、意味や読み方のわからない語句は、辞書を用いて調べる」。「辞書で調べた

ことは、各教科の意味調べノートに書き写し、その場で覚える」。

②「教科書を声を出して、スラスラよく読めるようになるまで、音読練習」。

③算数や数学などの「計算や問題」は、ノートに書き写し、自分の力で解いてみる。

○「何がわからないかを、はっきりさせて、授業に臨む」ことが「予習」では大切です。

## (2)「授業の受け方を工夫する」

①「手を机の上に置き、先生の顔、口元を見て、しっかりお話をお聞きする」。

②大切なことは、しっかりノートをとる(メモする)。大切なことをノートに取れるのは、極めて高い言語能力があることを意味します。

○社会に出て大事なことは、大切なことをメモし続け、仕事に生かすことです。「仕事はメモで身に着ける」といわれるほど、社会に出てからは「メモが大事」です。

③わからないことがあれば、まずは、自分でよく調べ、十分に考えてから、授業中、または、授業後、先生にご質問する。

## (3)「復習の仕方を工夫する」

①「教科書」「授業ノート」を、もう一度ていねいに学び直す。

「ノート整理」「意味や読み方(発音)がわからない語句は辞書を用いて調べる」。

②「教科書」「ノート」を「声を出して読む(大切なことは暗唱)」。

「書き取り練習(暗記・暗写)」「計算・問題練習」。

③「教科書」「ノート」はスミからスミまで覚え、「テストでよい点数・合格点を取る」。

○「定期試験」「検定試験」「入学試験」など、大事なテストの前には、過去に出題された問題(5～6年分)を、じっくり解き、弱点分野をきちんと勉強し直す。

## Q 最後に一言どうぞ。

A (1)「学習の効果」とは何か。「学んだことを、自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」と考えます。

(2)「学生時代に学んだこと」と、「社会に出てから学んだこと」を、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」を、「学習の効果」「学んだことの結果」として「目指していただきたく希望します。

○学校で学んだこと、社会に出てから学んだことのすべては、皆様のお役に立ちます。ですから、学校の教科書や授業ノート、辞書・地図帳・歴史年表、社会に出てから学んだテキストは、処分しないで、きちんと保存し、折に触れて「学び直す」。「武士の刀」と同様に、いつでも「使える」ようにしておきましょう。刀がさび付いたら、いざというときに刀を抜いても、役には立ちません。学校や社会で学んだ「教科書・テキスト」を、折に触れて学び直す。そして、自分のものとして、いつでも使えるようにする。「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ためには、一度学んだ教科書やテキストは、捨てずに身近に保存、折に触れ「学び直す」ことをおすすめします。

(3)「学習効果」＝「学習時間」×「学習方法」の「掛け算」を、ご自分自身のものとして、学校時代だけでなく、社会に出てからも、是非、「ご活用」くださいね。

Q 学習塾・予備校・私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A 「一生勉強、一生青春」です。勉強は、一生続きます。生徒の皆様、上級学校や、社会に出ても役立つ勉強の仕方があれば、授業中や授業外に、どんどんお伝えすることをおすすめします。地域社会の皆様にお伝えしたいことがあれば、様々な機会を通じてお伝えください。

Q 今月も僭越とは存じますが、先生方がお読みになり、お役に立つと思われる本を何冊かご紹介させていただきます。

(1)一冊目は、大石学著「江戸の教育力」東京学芸大学出版社、2007年3月30日刊です。著者は、江戸時代の教育の第一人者の先生です。圧巻は、巻末の、都道府県別の藩校一覧表です。是非お近くの藩校をご訪問ください。

(2)二冊目は、長谷川三千子著「民主主義とは何なのか」です。民主主義の本質的理解が得られます。

(3)三冊目は、岡崎久彦著「明治の外交力、陸奥宗光の『蹇蹇録(けんけんろく)』に学ぶ」海竜社、2011年2月25日刊です。令和の危機をどう乗り切るか、示唆に富みます。

(4)四冊目は、茂木敏充著「日本外交の構想力」徳間書店、2003年8月31日刊です。茂木敏充外務大臣が、外務副大臣であった時期の思想と行動は、現在でも一貫しています。現代日本外交を読み解くのに役立ちます。

(5)五冊目は、佐々木融著「弱い日本の強い円」(2011年10月11日刊)と、同著「インフレ・円安・バラマキ・国富流出」(2026年1月23日刊)、いずれも、日経プレミアシリーズ、日本経済新聞出版刊です。河野龍太郎氏、唐鎌大輔氏、斎藤ジン氏、佐々木融氏など、中堅エコノミストたちの「健全財政論」は示唆に富みます。

(6)NHK朝のTVドラマ「ばけばけ」で、小泉八雲、ラフカディオ・ハーンにご興味をお持ちになった方は、同著「神国日本」東洋文庫、平凡社、1976年7月14日刊、同著「日本の心」講談社学術文庫、講談社、1990年8月10日刊、同著「東の国から」岩波文庫、岩波書店、2025年9月25日刊を、是非お読みください。日本は、どのくらい「素晴らしい」かよくわかります。

(7)NHKの大河ドラマで、秀吉をやっている間に、信長・秀吉・家康の本を読むのも一興です。堺屋太一著「秀吉、夢を超えた男(上・中・下)」NHK出版、はおすすりめです。

(8)八冊目は、堀内勉著「人生を変える読書、人類三千年の叡智を力に変える」Gakken, 2023年12月19日刊です。「正解が一つではない問いに、自分なりの答えを出す方法、それが読書です」。「読書教育の教科書」です。